

⑧4 松島句碑一覽

松嶋御嶋之圖

芭蕉翁 朝よさを誰まつしまそ片心

右延享四丁卯十月十二日仙臺冬至至菴建

一道江心渡斷虹 蒼松千里鬱空濛

安禪亭畔苔成褥 坐盡青螺萬點中

宝曆丙子仲夏日

長崎 春菴

磯千鳥飛石つたひ千賀の浦

宝曆丙子冬浪華木田萬翁之文塚

朝きりや跡より恋の千松しま

明和戊子秋

雪中菴 蓼太

松島やしくれくれのいくところ

安永五申年

蒼々舎 文 鱗

松島や茸狩舟の真帆片帆

鶴とひてむれるや雪の千松しま

天明二壬寅正月

六花菴 官 鼠

松島や閑伽をたゝえて鳴千鳥

天明壬寅仲冬二日

月亭 雪 守

雪に富むやまつ島々の幾なかめ

寛政三己亥十月

流石菴 羽 積

松しまやその日くくの空の笑み

寛政八丙辰首夏今日菴社中

立 砂

世の中の富貴は暑し山と水

享和三癸亥春

耳社翁

松しまに月も風もふゆの光かな

笠捨て是はくくの秋も暮

山 形

松島や鶴に身をかれほとゝきす

松しまやみつよつくて鐘氷る

曾 良

夏瘦も愈たり朝の千松しま

松島の松を植てよ塩竈の

文 聴

浦の烟となりししるみに

奥細道

天下有山水 各檀一方美 衆美歸枿

洌天下舞山水 松嶋山主 牧舟叟誌

五太堂之圖

松島や果はかなしく夕詠め

千代やすむまつしまくのかんこ鳥

寛政二庚戌歳五月日

早おとめのしらぬ田植や千松島

寛政八丙辰五月七日

世の中の桜おもはず千松島

寛政十一己未三月

松しまや月の夕くれ日の出潮

日のくれぬひはなけれどもあきの暮

文化十四丁丑三月

松風はたねんのはしよ子嶺

覺祖高蹤碑文略文政三庚辰春

松島雪月記文略文政十二己丑冬

秋知らぬ島は緑の月夜かな

泊りく苦し成雪の松島や

波間より今一入の色まして

千代のさかへを松島の春

人とわは何とこたへん松島や

おしまの磯の秋の夕くれ

松島や暗を戻して水明り

天保七申八月

膝抱はひさへ来にけり秋の暮

暗てよき島は時雨も亦奇なり

右五太堂の内にあり

曉 臺

巨 山

松 吟

春 蟻

元 夢

士 郎

尊 三

稱 法 寺

秀 山

何 丸

龍 石

之 在

梅 得

國 腸

梅 賀

江 左

日 觀

真 砂

兔 溪

蒼 虬

梅 賀

真 砂

兔 溪

蒼 虬

梅 賀

真 砂

兔 溪

蒼 虬

梅 賀

真 砂

兔 溪

蒼 虬

梅 賀

真 砂

千時嘉永二層維作墨仲秋新板

千葉則行著 印